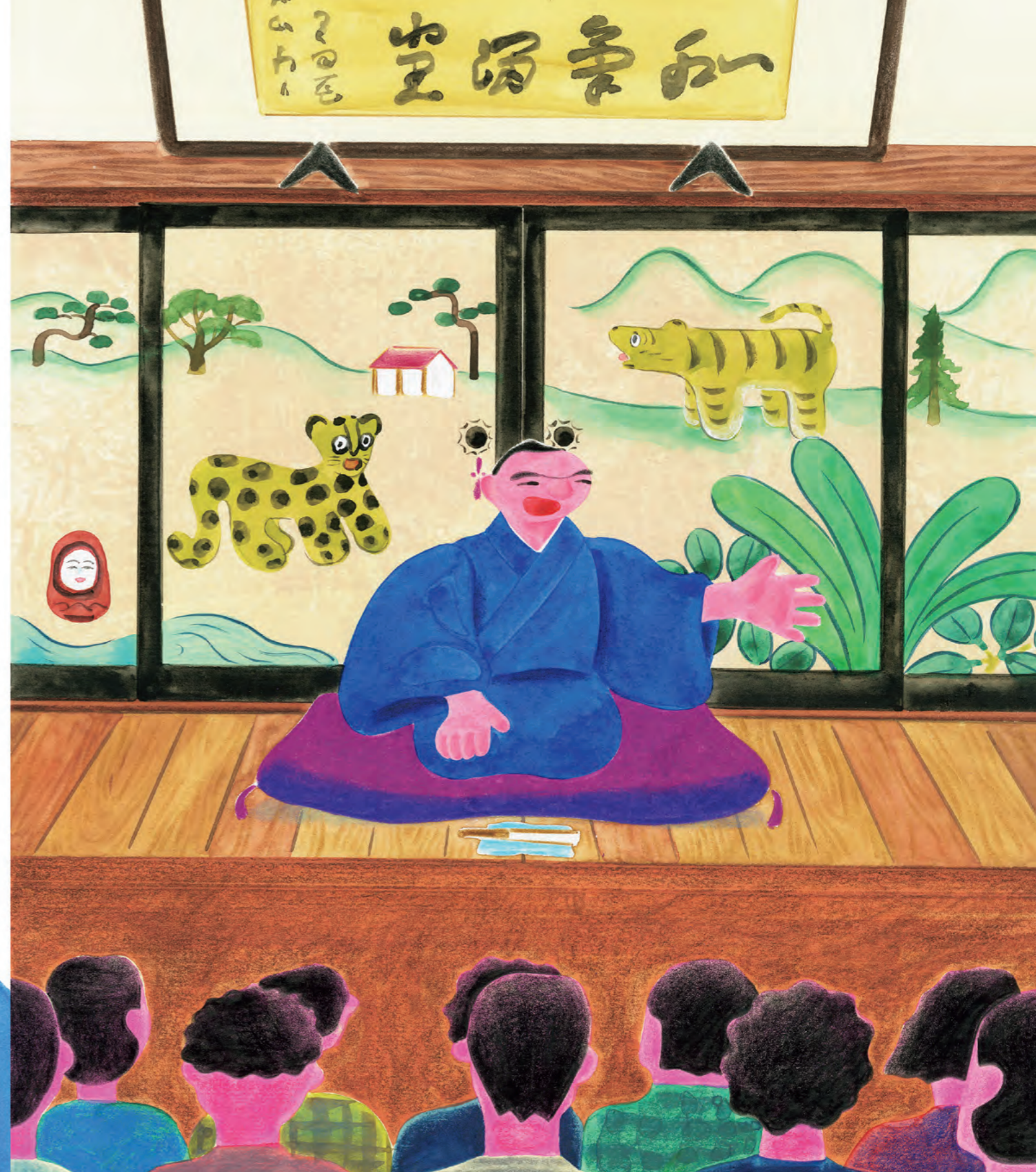


もじをよむのが
にがてなんです



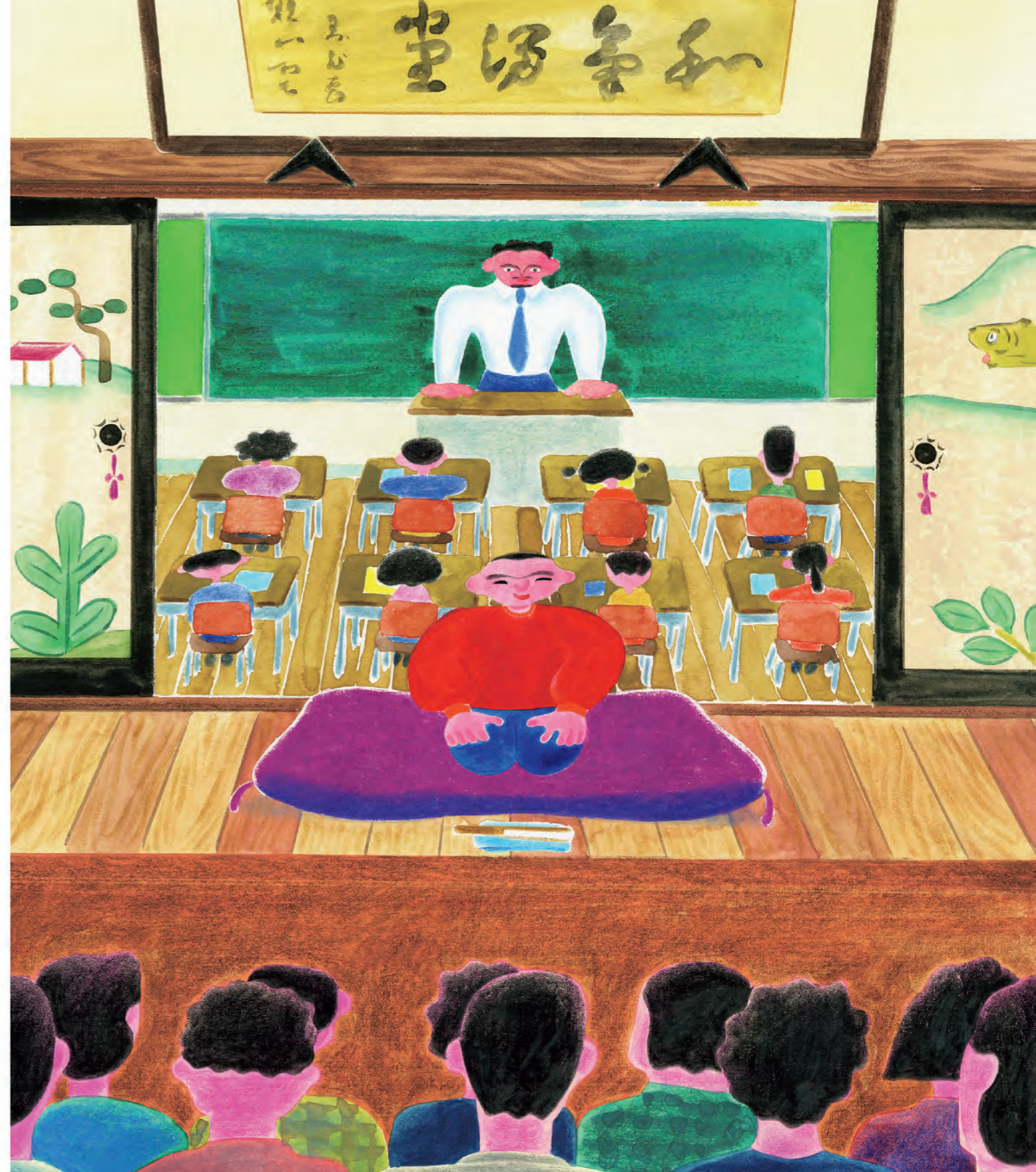
やなぎやかろく
柳家花緑です。

らくごかを させていただきます。





いやあ、
わたしは ちいさいころから
もじを よむのが にがてでねえ。





これは
なんと
よみますか？

で、
「あさくさ」
は？

「あさくさ」
は？

ライム...
...

あさくさ...
...

あさくさ...
...

がっこうで せんせいに きかれても、

こんなふうに まちがえてばかり。

どうにもならないふう

よみかきのにがて

よのなかには、じぶんでは どうにもならない
「こまりごと」を かかえた人がいます。
このおはなしの しゅじんこう、らくごかの花緑さんは
「もじをよんだり かいたりすることが どうしても にがて」
という とくせいを もっています。
うまれつき、のうの いろんなばしよの はったつが すこしおくれていたり、
バランスが わるかったりすることで、
よんだり かいたりすることが とても むずかしいのです。

どんな「こまりごと」があるの？

よむ

- 「ライム」「ラムネ」のように、にたような もじが ならんでいるとよみまちがえる。
- ぶんしょうを どこで くぎって よんだらいいのかがわからなくなってしまう。
- もじが ぼやけたり、さかさに みえたりしてしまう、など。



かく

- 「は」「も」のように、もじを さかさに かいてしまう。
- 「じゃがいも」を「がじゃいも」と、もじの じゅんぱんをまちがえて かいてしまう。
- かんじのかたちが バラバラにしか とらえられず、おぼえられない、など。

どうでしょう？ こんな「こまりごと」があると、どうしても
じかんが かかったり、まちがえてしまうのは しかたないですね。
でも まわりからは、がんばっているのに「やるきがない」とか、
「どりよくしていない」と、かんちがいされるのが おおいのです。

どんなくふうをしているの？

- ぶんしょうは じょうぎなどで かくして すこしずつ よむ。
- おぼえたいことは ろくおんをして なんどもきいて おぼえている。
- ぶんしょうを じどうでよんでくれる きかいを つかう。
- えんぴつで かくのではなく パソコンのキーボードで もじをうつ、など。



さあ、もし きみのそばに よみかきが どうにもこうにも にがてな子が
いたら、どうしますか？ どんな くふうをしたら たのしく べんきょう
できたり、いっしょに あそんだり できるでしょう？
まずは その子の 「こまりごと」を しっかりときいて、その子の きもちに
なってみましょう。
すると きっと いいアイデアが うかぶはずですよ！